

<p>会報</p> <p>第56号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2011年12月22日発行</p> <p>岩木山を考える会</p> <p>会長 阿部 東</p>
-----------------------	---	---

第18回「私の岩木山」開催と出品・会場展示のお願い

開催日 2月10日(金)～2月12日(日)

開催時間 午前10時～午後5時まで
(ただし最終日は午後4時まで)

開催場所 NHK弘前放送局ギャラリー
(弘前市下白銀町)



「私の岩木山」ギャラリーの様子

* 出品について

会報に同封された「出品票」に必要事項を記入し、2月9日(木)4時までに会場に搬入して下さい。

* 出品写真について

岩木山に関連ある写真であればどのような写真でも構いません。お1人5点までとさせていただきます。額に入れてご持参下さい。

* 展示について

2月9日(木)午後4時より展示しますのでお手伝いお願いします。最終日の午後4時より後片付け後に写真の返却を行います。

< 弥生スキー場跡地の毎木調査についての報告 >

2011年11月20日(日)10時～11時 参加者9名

今回の調査は昨年11月28日、今年6月12日に続く3回目の調査で、目的は言うまでもなく、樹木の成長過程を知るための追跡調査です。

天気予報では雨の心配がありましたが、幸い天気は曇り空ながら風もなく穏やかで、午前10時、集合場所の弥生いこいの森駐車場には、9名の参加者が顔を揃えました。

いずれも経験者であり、心強い思いでした。

調査に先だち、阿部会長の挨拶、花田幹事の準備してくれた調査マニュアルを基に、調査方法を再確認したのち、Aブロックから開始となりました。

Aブロックは春の調査時には歩き易かった地内も、夏の間には背丈を越える程に長い枯れススキやオオイタドリに難儀しながらの調査になりました。

樹木は2～3人がグループとなり計測し、新しい標識をつけ直し、手際よく作業が行われました。次にBブロック、そしてCブロックと続きましたが、特にBブロックからCブロックに移動する途中の旧居住地跡や湿地あたりの枯れススキ、オオイタドリの草原は、前が見えない程深く、山歩きの達人が先導したことで無事に目的地に辿り着けたが、けもの道程度でも足元がはっきり見える道が欲しいと思ったところであった。

調査は順調に進行し、Cブロックの終了は10時45分であった。

駐車場に移動しての総括では、調査結果の数値発表、意見交換があり、成長の速い樹種、大木の下や光りの当たらない成長の遅い低木、生育環境が大きく影響し、成長の度合いに差が表れているのでは、など感想がありました。

なお、調査終了後、故三浦元事務局長（昨年11月29日死去）の一周忌墓参りを行うことが予定されていたことから、菩提寺である法源寺での集合時間を打ち合わせて、解散となりました。

（追記）故三浦元事務局長の墓参りは、11時30分弘前市新寺町の法源寺に9名が集合し、小雨の降る中、墓前に花束を供え、在りし日の故人を偲び、焼香して冥福をお祈りしました。

土岐 修平 記

<第1回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会に参加して>

弥生にスキー場を建設する計画が1992年に明らかになって以来、当会が主張し続けてきた岩木山の景観と自然を守る運動がようやく実り、弥生スキー場跡地の開発計画が白紙に戻ったのが2006年、前相馬市長の手によってでした。その後、弘前市が取得することになった25haもの広大な開発跡地の利活用のあり方について、弘前市が弘前大学と共同で進めてきた跡地利活用方策検討事業の報告書が2009年10月にまとまりました。

この報告書では、その基本的な考え方として、①広く市民の意見を聴いて今後の方向を定める。②自然に近い姿を念頭に置きながら検討を進める。③大型箱物施設を中心とした計画とは

しない。④防災や利用上の安全面も考慮し整備の方向性を定めていく。とし、整備の方向性の検討にあたっては、⑤広く市民の意見を聴くための「市民懇談会」を設置し、その運営は、外部の視点・手法を取り入れて透明性も確保する。という、5項目が提起されました。

11月25日、この市民懇談会の第1回の会合が船沢公民館で行われ、阿部会長と竹浪がメンバーとして参加してきました。二人とも「弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク（通称弥生ネット）」への市からの指名枠での参加です。総数11名の市民懇談会に当会から2名が入ることになったのは、これまで長年にわたり弥生スキー場跡地の回復問題での、弥生ネットとそれを支える岩木山を考える会の取り組みが評価されたものだと考えています。

第1回会議は、冒頭蒔苗企画部長の挨拶から始まり、高木企画課長による趣旨説明の後、懇談会のリーダーである澁谷亨氏（ひろさき環境パートナーシップ21事務局長）の司会で始まりました。跡地の戦後からの航空図面が年代を追って15枚が示され、歴史的な現地の利活用の状況を把握した後、自己紹介、意見交換と進みました。意見交換では、阿部会長が前に出て現在の跡地の自然回復状態を説明しました。これまで20年近くにわたって弘前市に対して弥生の開発計画に対し異議を申し立て、時には鋭く市と対立してきたこともあったことが想起され、感慨深いものがありました。

今回は第1回目の会合と言うことであまり深められませんでした。今後、委嘱期限の2013年3月まで弥生跡地をどのような形で弘前市民が利活用をしていくのか、その図面を描いていくこととなります。会員の皆さんからも積極的なご意見や提言をいただければありがたいと思っております。市民の代表の一人として頑張りますので、宜しくお願いします。

事務局長 竹浪 純 記

<岩木山講座④ 巖鬼山・大石・鬼神社巡り報告>

2011年10月23日（日）10時～14時半

時々小雨の降る中、29名（マイクロバス満席）の参加で好評のうちに終わることができました。

鬼神社の河童（カッパ）はカワウソだよとか、大石神社の沢山の馬の像はどんないわれがあるの？馬の像よりも飼い葉＝餌オケに意味があるんじゃないの？などの質問や御意見もあり賑やかでした。巖鬼山神社では長見恒男宮司の特別なおはからいで、社殿に入れてもらって絵馬を見たり、社務所でお弁当を食べることが出来（雨をしのぐことが出来）ました。長見さんは何代も続く巖鬼山神社の宮司さんですが、雨の中でお仕事されていて服がぬれていることでお

話を聞くことが出来ず残念でした。会員の福士寿一先生、カップと馬の質問に答えて下さいよ。

阿部 東

記

* 感想文 *

「大石・巖鬼山・鬼神社の神社巡りに参加して」

岩木山を考える会の会員であり、岩木山の動植物についていろいろ知りたいと思う気持ちもあり、自然観察会には参加したいと長い間思っておりました。

今回はじめて岩木山信仰の原点である神社めぐりに参加させていただきました。

感動したことは、巖鬼山神社の1000年以上の大杉です。ひんやりとした杉の息遣いが感じられ心が静かになりました。人間はこのような木々の息遣いを感じて神として癒されているのかもしれない。



巖鬼山神社の鬼瓦

だから神社には木があるのかなと思いました。もう一度行きましたが、やっぱり座禅でも組みたくなるような浄化された空気が流れていました。

大石神社の石もいつも通る場所なのに始めて見ました。

鬼神社は農業神として崇められたという鬼の話を知りました。

それぞれの神社の位置とそのたたずまいを見学し、いろいろなことを知っている人から話を聞いたり、改めて資料を読ませていただいたりして、知識として知ることは楽しいと思いました。すぐに忘れてしまうのは申し訳ありませんが…

信仰という別な視点から岩木山を考えることができ今回はありがとうございました。動植物のことも何もかも知らない事ばかりなので機会があったらまた参加していきたいと思います。

間宮 久子 記

「神社巡りに参加して」

講座のレジメ、阿部会長さんの各神社での懇切丁寧な解説、ほんとうにありがとうございました。断片的にだけ知っていた私の知識、大いに開発されました。

鬼神社－鬼神社の沿革と農具の奉納額、初めて見ました。機会を見て、藤田民次郎の墓へも行きたいものです。

巖鬼山神社－初めて見学しました。一度は行きたいと思っていた神社です。天然記念物の大

杉、本殿前の大きなコウヤマキ、河童の狛犬、神社の拝殿も見学するものが多いようです。神社に対する氏子の思いがこもってありました。

私が参加した目的の一つに、「私の小学校時代の回顧と、現在の大石神社」ということがありました。

私が大石神社に初めて行ったのは、小学校5年生（1939年）の春の遠足でした。同級生のおおかたは、岩木山登山でした。私は虚弱児だったため父が許してくれず、大石神社までの遠足でした。板柳小学校から大石神社までは、3里半（約14キロメートル）という距離でした。朝5時学校出発、大森を過ぎてからは道路もはっきりしない藪の山道。疲れてやっとの思いで大石神社に到着。水筒の水もなくなり、喉がからから。崖下の赤倉川までは、御神体である巨石の脇の鎖を伝ってやっとの思いで降りて行きました。その水のおいしかったこと・・・！



巖鬼山神社と大杉

72年も前のことなのに、当時の記憶がよみがえってきました。

ほんとうにありがとうございました。

竹浪 恭二郎 記

<岩木山講座⑤「岩木山のクジラ化石」報告>

2011年12月9日（金）弘前市民参画センター 18:30～20:30

去る12月9日、県立郷土館調査員佐藤巧氏を講師にお招きし、湯段温泉近くを流れる中村川支流で発見されたクジラの化石（イワキサクジラ）を中心に講演をして頂きました。

すべてを皆さんにお伝えすることは無理なので、私の印象に残ったことを少し報告したいと思います。

先ず、発見のいきさつですが、弘前大学の学生であった神宮という人が地質調査中に偶然発見したそうです。本格的な発掘調査の直前に大雨が降り、化石の一部は流されてしまい回収不可能というか、もう粉末になっているだろうということでした。

又、「イワキサクジラ」の名前の由来は、イワキクジラでもよかったのですが、福島県のいわき市付近で発掘された化石と区別するためだったということで、「イワキ」より「イワキサン」の方が私たちの愛する岩木山との関わりが強く感じられ、私個人としては気に入っています。

さて、このクジラがどの位前に生息していたかというといと800万年前から500万年前で、湯段周辺は日光も届かない位深い海だったそうです。私たちの岩木山は影も形もなかったということになり、このクジラの化石が岩木山が形成されていくすべてを見守っていたかと思うと感慨深いものがあります。



以上、ほんの一部の報告で申し訳ございませんが、興味のある方は、当日の資料がありますので、ご連絡下さい。

尚、少ない参加者にもかかわらず、一生懸命お話をして頂いた佐藤氏には心から感謝します。

小堀 英憲 記

【 寄 稿 】

平成23年の岩木山中腹独自歩行の記

齊藤 真人 記

小生 岩木山は登頂のための登山というよりは中腹部の山域をどんでもかんでも歩く事が主となっていますので、本年分をまとめてみました。(12月6日現在)

2月22日 晴

百沢より毒蛇沢左岸 800m 高付近まで登る。

(1月8日よりひいていた感冒がまだ抜けず、咳がでて煩わしかったが、後24日になってようやく回復)

4月10日 晴

竹浪さんと他に女性の登山者の方2名の計4名で8合目駐車場まで登る。(積雪期の例のアオモリトドマツがどうなっているかを確認めたかったのですが、まだまだ深い雪の下で全く確認できませんでした。) 帰路は黒森方面へ降りて湯段沢を横断して戻りました。(小生バテて男女3名のサムライの後をついていくのがやっとでした。)

4月15日 薄曇

4月10日と同目的と先日バテた自分へのリベンジの思いにかられて?スカイライン駐車場へ登山。除雪運転手の方にアオモリトドマツ保護を訴えた後、戸上沢に沿って下った。(戸上沢は

右岸尾根と左岸尾根の高さが不均衡な段差となっている理由を考察する目的もありました。左右の尾根にかなりの段差のある理由は、湯ノ沢爆火口が爆裂した際吹き飛んだ土砂、岩石が積み重なったためと思われました。)

5月6日 晴のち薄曇

毒蛇沢左岸 900m 高まで登る。(目的は山麓からの遠望で目立つ単独針葉樹を確認するため。結果はアカマツで、現場ではそれほどの大樹ではありませんでした。)

5月18日 快晴

西法寺森まで登る。(目的はアオモリトドマツがひょっとしたらあるかも、を確かめたいため。かなりギザギザに登り降りして探しましたが、ナシでした。)

5月23日 晴

白沢左岸尾根を登り、追子森周辺その他を探したが、アオモリトドマツはなしでした。(先日の西法寺と同様、アオモリトドマツはなく、針葉樹はコメツガ、ハイマツ、カヤ等でした。但し、昭和30年代頃には西法寺森近辺にアオモリトドマツがよくあったとの証言はあります。)

5月27日 薄曇

一本木沢(弥生～百沢間)の沢筋1380m高まで登る。(登頂を目指したが、バテて自己落伍、昨年は登頂したのに?しかし途中には天国のようなブナ林もあります。)

6月7日 晴

竹谷さんと赤倉コース近辺1000m弱高の地点のヒバを探る。(赤倉登山道から左へ横断、コメツガ林中にひっそりと生息するヒバを確認する。以前はかなりの樹高の木々がありましたが、平成16～18年と続いた豪雪のためダメージを受けて減少したものと推測しています。なお、岩木山中ではヒバは植林人工林も含めて希少なものと思いますが、例のスキー場拡張で大幅カットされた箇所以外にも南側、北側の中低高度地帯に自然林に近い状態で少ないながらも点在しています。)

9月16日 薄曇

長平コースを1100m高まで登る。(目的は6/19の当会湿原調査の時、樹木の枝折れ、落下がひどく、歩行難渋したので、その後の状態を確かめたいためでした。結果は、倒れた大木を跨がなければならない所が3ヶ所位ある他は非常に歩きやすく回復された状態になっていました。これは登山者有志の方々、その他の方々によって整備して頂いた結果なのではないかと思われます。整備された方々には感謝申し上げたいと思います。)

10月12日 晴

白沢右岸側より湿原手前まで登り登山道へ出て西法寺森を過ぎた所から旧追子森コース跡を

確かめようとしたが、超密生の笹ヤブ横断となり予想時間の3倍を費やし、吊尾根鞍部に達した時は日が傾き、バテバテ。そして紅葉黄昏の白沢を下降、途中で日没、そして完全に夜になってハンドランプを持って夜間山歩きとなりました。車へ辿り着いた時は18時45分でした。

(主目的は旧追子森コース跡を確かめたいためでしたが、完全な過密ヤブ横断となりました。白沢は危険箇所が少ない山域で天候悪化の可能性もなかったのでそのまま夜間歩行を続けた次第。懐中電灯での山歩きは意外に旧山道の踏み跡はわかりやすいですよ。)

10月30日 薄曇のち本曇

百沢姥人沢を登って、毒蛇沢へ出て、同沢の左右分岐地点付近を登り降りした後、斜面横断して900m高付近にて百沢登山道へ出て百沢まで下る(今まで入ったことがなかった姥人沢を通ってみようと思ったこと、毒蛇沢の分岐点付近を歩いてみよう和实施)

11月2日 薄曇のち山歩き終わってから雨

竹浪さんと白沢上部の「星池？」まで登った後、白沢左岸を下って二子沼へ達し、再び白沢へ下って帰還。(岩木山中の色々な素晴らしい場所を竹浪さんに知ってもらい共有するために実施!?)

11月8日 晴

赤倉沢左岸の(旧修験者道跡)を登り、赤倉沢上半部縁をグルリとU字形に回って鬼の土俵から沢の底部へ降りて帰りました。(左岸尾根上部つまり白狐沢上部歩行ではやはり少しずれてしまって、ヤブコギとなってしまう、又大鳴沢側に出てもコマツガ林の神様の住宅付近でも以前はそうでなかったのに右往左往してしまい時間ロスしてしまいましたので、登山は断念。)

11月21日 晴

岳、戸上沢を1000m高付近まで登る。同沢は無雪期に沢を通して登り降りした事がなかったので実施。但し、林業道路を利用して登ったので、沢歩き自体はまた半分残ってしまった次第。

本会にも山男、山女、山ベテランが数多いと思いますが、小生にはもう少しこういうタイプが増えて欲しいという思いがあります。それは、山の中でのほんの狭い範囲でもよいので道なき道の部分を地形や山容を判断しながら歩くタイプの方がもう少し人数的に増えても良いと思っています。それによって登山道とも異なってより広く、深く山を知ることになります。(山菜採り、キノコ採りを無理せずに行えば自然に身につくと思います。)但し、常に自然保護の基本を忘れぬように、ということです。

現在では、小生は岩木山では原則として高度1200m以上は道なき道を歩かないように自己規制をしています。(高山植物地帯を勝手に歩きまわり踏み荒らしているとも解釈できる得るわけですので) ちなみに白神奥地は道らしい道はなく、各自の地理判断によって歩行する状態です。

その他、本年岩木山に入ってみて感想を2つ。

(1) 弥生コースの6合目から上は刈り払いが必要で、特に8合目～頂上間は懸念を感じずる位急斜面の上手側からの植物繁殖があり、自然保護を考えながらも刈り払いは必要と思われます。

(2) これは長期展望に類すると思われませんが、赤倉沢の上半部は常に少しずつ崩壊が進んでいます。そのうち登山道近辺にも崩壊が及ぶ可能性がありますので、赤倉沢上部のU字型地帯周辺部は常に崩壊の可能性も長期的に考慮する必要もあるように思われます。

以上


* 岩木山の自然をめぐる情報 *


さて、幹事会では毎回最近自分が目にした、或いは耳にした岩木山に関する情報を出し合い、情報を共有しているのですが、皆さんにもこの場で、少しお知らせしたいと思います。

* アオモリトドマツについて *

9月29日津軽森林管理署業務第一課長の畠山氏と当会の阿部会長、斉藤幹事、竹浪事務局長で現地確認をしました。その後10月4日に畠山課長から「検討の結果、アオモリトドマツは注視はしていくが、当面現状のままにすることになった」と報告がありました。最も懸念されるのは冬期間の除雪作業により、トドマツが影響を受けることと思われるので、当会としては、今後も継続して注視していく予定です。

* 会員の皆さんへお願い *

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

 「岩木山を考える会」の会員継続手続きをお願いします。会費納入は4月会報に同封した振替用紙でお支払い頂くか、最寄りの幹事までお届け下さい。

♥ 新事務局長紹介



故三浦章男さんの後を継いで事務局長の大役を仰せつかった竹浪純と申します。私は阿部代表のように学者でもないし、三浦さんのように博学でもありません。観察会などでも花の名前などを皆さんに教わりながら歩いているような状態です。ベテランの幹事の皆さんに教えていただきながら、会の運営がスムーズに行くようにがんばりたいと思います。現在、医療生協に勤めておりまして、日中歩き回ることがなかなか出来ません。会員の皆さんからいただく情報や提案、意見が頼りです。是非お力をお貸しください。よろしく願います。

竹浪 純

♥ 新幹事紹介

出身は青森市です。高校まで過ごし、その後上京した2年余りを除き約40年弘前に住んでいます。看護学校時代から山登りをしていましたが、この10年余り好んで山に親しみ、それは生活の支えにもなっています。山には夫々の味わいがあり、生きている充実感を体感できます。



「岩木山を考える会」に出会い、改めて「自然とどうつき合うべきか」を学ぶ機会になっています。諸先輩に学び、ふる里の山、岩木山のある

がままの自然を、次の世代に残せるよう微力ながら頑張ります。

藤原 裕貴子

<編集後記>

秋の怒涛のりんご収穫も終わり、一息つくまもなく今は剪定のバイトに行っています。中断していた井戸作りはコンクリで井戸枠を作り、それからポンプを設置しようやく完成しました。その他、畑や家の冬支度、堆肥運びなど全く休む暇がありません。りんごの値段が高いのが唯一の救いでした。来年はもっと余裕を持ちたいと思います。それでは皆様よいお年を。

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第56号（2011年12月22日発行）発行／岩木山を考える会／会長 阿部 東
〒036-8336 青森県弘前市栄町4-12-2／電話 0172-36-4205 事務局長 竹浪 純／電話080-5229-6076
郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先：岩木山を考える会